

JIS

カドミウム地金分析方法

JIS H 1161-1991

(2001 確認)

(2006 確認)

平成 3 年 12 月 1 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和35.11.1 改正：平成3.12.1
官 報 公 示：平成3.12.9
原案作成協力者：日本鋁業協会
審 議 部 会：日本工業標準調査会 非鉄金属部会（部会長 福迫 達一）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

カドミウム地金分析方法

H 1161-1991

Methods for chemical analysis of cadmium metal

1. 適用範囲 この規格は、JIS H 2113に規定するカドミウム地金中の鉛、銅、亜鉛及び鉄の定量方法について規定する。

ただし、光電測光法による発光分光分析方法は、JIS H 1163による。

備考 この規格の引用規格を、次に示す。

JIS H 0301 地金の試験並びに検査通則

JIS H 1163 カドミウム地金の光電測光法による発光分光分析方法

JIS H 2113 カドミウム地金

JIS K 0050 化学分析方法通則

JIS K 0115 吸光光度分析のための通則

JIS K 0116 発光分光分析方法通則

JIS K 0121 原子吸光分析のための通則

JIS Z 8401 数値の丸め方

2. 一般事項 分析方法に共通な一般事項は、JIS K 0050、JIS K 0115、JIS K 0116及びJIS K 0121による。

3. 試料の採り方及び取扱い方

3.1 試料の採り方 試料の採り方は、次による。

- (1) 分析用試料の採り方は、原則としてJIS H 0301の2.2による。ただし、きりによって削り取った試料は、清浄なはさみを用いて約5 mm以下に切断する。
- (2) 分析用試料の採り方が、(1)の規定によることができない場合には、受渡当事者間の協議によって定める。

3.2 試料の取扱い方 試料の取扱い方は、次による。

- (1) 分析用試料は、異物などによる汚染を防止するため、適当なふた付きガラス容器などに入れ、密栓して保存する。
- (2) 分析用試料は、その表面に油などが付着しているおそれがあるときは、あらかじめエタノール、アセトンなどで洗浄して乾燥する。
- (3) 分析用試料を定量に用いる場合は、あらかじめ必要量をビーカーに取り、塩酸(1+10)を試料片が沈む程度に加え、加熱して約5分間煮沸するか、又は約80℃で約30分間加熱して、混入した亜鉛、鉄などを溶解する。水で洗浄した後、エタノール、アセトンで順次洗浄して乾燥する。

3.3 試料のはかり方 試料のはかり方は、次による。

- (1) 分析試料をはかり取る際には、平均組成を代表するように注意しなければならない。
- (2) 分析試料のはかり取りには、原則として化学はかりを用い、1 mgのけたまで読み取る。

4. 分析値のまとめ方

4.1 分析回数 原則として同一分析所において2回の繰返し分析を行う。